

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

21. その他

文献

相正人. 大腸内視鏡検査における腸管腔内直接散布による芍薬甘草湯の鎮痙剤としての有用性～芍薬甘草湯とペパーミントオイルとの比較検討～. *Medical tribune インターネット速報 (DDW)* 2005: 10-1.

1. 目的

芍薬甘草湯直接散布の大腸攣縮に対する有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

1 大学病院

4. 参加者

ポリープ検査をはじめとするスクリーニング目的で大腸内視鏡検査を施行することとなった患者 131 名

5. 介入

Arm 1: 芍薬甘草湯群。ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒 0.5g を生食液に溶解し 50ml (濃度 10g/l) としたもの

Arm 2: ペパーミントオイル群。ペパーミントオイル 0.4ml をソルビタン脂肪酸エステル 0.05g とともに水に溶解し 50ml (濃度 8ml/l) としたもの

Arm 3: 生食群

各群とも左臥床位で CF を実施し、肛門から 20- 25cm の位置まで内視鏡を挿入した後、内視鏡先端から 1cm に保ちながら収縮輪に噴射

6. 主なアウトカム評価項目

収縮輪の内腔面積 (各薬剤の噴霧前後 3 分間における収縮輪の収縮弛緩運動をデジタルビデオを用いて録画記録しピクセル数として表示)、拡張面積-時間曲線の下面積

7. 主な結果

芍薬甘草群、ペパーミントオイル群ともに生食群に比較して有意に内腔面積が拡大した。拡張面積-時間曲線の下面積の値もともに生食群に比較して有意に大きかった。芍薬甘草湯とペパーミントオイル群に差はなかった。

8. 結論

芍薬甘草湯はペパーミントオイルと同等の大腸壁弛緩作用を有する。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

芍薬甘草湯の大腸壁直接噴霧は CF 検査における鎮痙剤として利用できる可能性がある。

12. Abstractor and date

小暮敏明 2007.6.15, 2008.4.1, 2013.12.31